令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果
－分析から見えてきた成果・課題と今後の取組について－

区　　名　住之江区

学 校 名　南港光小学校

学校長名　北村　満夫

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和４年４月19日（火）に、６年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。

１　調査の目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査内容

(1) 教科に関する調査

・国語
・算数
・理科

(2) 質問紙調査

・児童に対する調査
・学校に対する調査

３　調査の対象

・国・公・私立学校の小学校第６学年の原則として全児童
・南港光小学校では、第６学年　　36名

学校名　南港光小学校

令和４年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

大阪市と比較して、国語は４ポイント、算数は1ポイント、理科も1ポイント低かった。全国の平均正答率と比較すると、国語は5.6ポイント低く、算数は2.2、理科は4.3ポイント低かった。よって、今年度は、３教科全て大阪市と全国平均をどちらも下回った。しかし、平均無回答率は良く、大阪市と比較すると、国語は4.2、算数は3.2、理科は3.6ポイント低く、全国と比較しても3教科とも低かった。特に算数では無回答率０で、この結果から児童は問題に粘り強く取り組み、自分の思考を積極的に表現しようとする力が育っていると考えられる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

［国語］「書くこと」の領域では、大阪市平均より8.2ポイント、全国平均より5.7ポイントも上回っている。記述式の問題への正答率も高く、無回答率も低い。粘り強く取り組む姿勢や、日頃から「書く活動」の機会を多く取り入れた実践が成果となったと考えられる。「話すこと・聞くこと」の領域は、大阪市平均より2.3ポイント、全国平均より5.1ポイント、「読むこと」の領域も大阪市平均より1.8ポイント、全国平均より3.4ポイント下回った。表現力や読解力を育てる授業改善が必要である。
［算数］「図形」領域では大阪市平均より2.5ポイント、全国平均より1.3ポイント上回っており、昨年度同様、良い結果となった。ＩＣＴを活用し視覚支援を充実させた授業により、児童理解が深まっていると考えられる。しかし「数と計算」の領域では、3.6ポイント、「変化と関係」領域では2.6ポイント下回った。基礎学力の定着及び数量の変化の関係について理解することに課題があるため、計算力とともに思考力を育て、「主体的・対話的で深い学び」を充実させる算数科の研究に学校として取り組んでいる。
［理科］生命に関する問題の正答率は僅かに高く、大阪市平均より1.1ポイント上回った。自然に恵まれた環境の中で、日々昆虫などの生き物に触れ合うことにより、様々な気づきをもって生活していることが伺われる。今後も授業において、事象における差異点や共通点を見出し、考える場面を多く設定していく。エネルギーに関する問題では正答率が低く大阪市平均より4ポイント、全国平均より7.8ポイント下回っている。観察や実験の結果を分析し、根拠をもって表現する力を育てる必要がある。

質問紙調査より

児童質問紙によると「友達と協力するのは楽しいと思いますか」の肯定的回答率は77.8％と高いが「友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の肯定的回答率は50％と低い。主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善に関する取組を算数科を中心に進めている。「算数の問題の解き方が分からないときは，あきらめずにいろいろな方法を考えますか」の肯定的回答率は75％で高く、無回答率は0なので粘り強く問題に取り組む児童は多い。児童の理解度に合わせ個別指導を丁寧に行っている成果が、学習意欲を高めていると考えられる。

今後の取組(アクションプラン)

本校では、算数科を中心とした研究が２年目を迎える。基礎学力の定着を図るため、四則計算の反復学習や小テストなどを活用した学習、個別最適化した学びを推進している。「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、さらなる授業改善を行う中で、自分の考えを表現したり、他者の意見をもとに学びを深めたり、広げたりさせる場面においてＩＣＴ活用を図っていく。また、学力経年調査や全国学力学習状況調査の結果をもとに課題を分析し、改善していけるように指導していく。

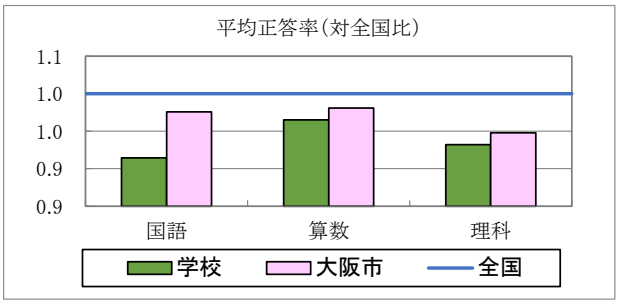
【 全体の概要 】

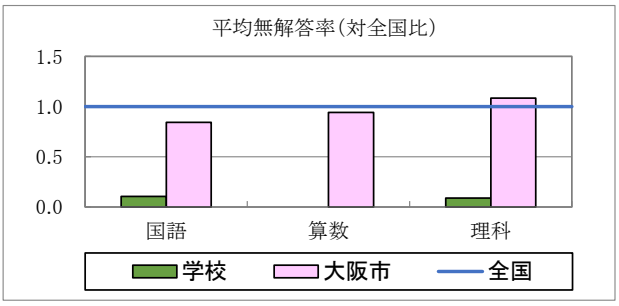
平均正答率（%）

	国語	算数	理科
学校	60.0	61.0	59.0
大阪市	64.0	62.0	60.0
全国	65.6	63.2	63.3

平均無解答率（%）

	国語	算数	理科
学校	0.6	0.0	0.3
大阪市	4.8	3.3	3.9
全国	5.7	3.5	3.6



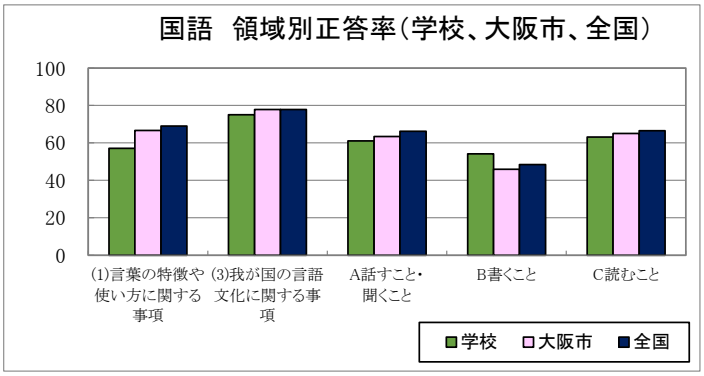


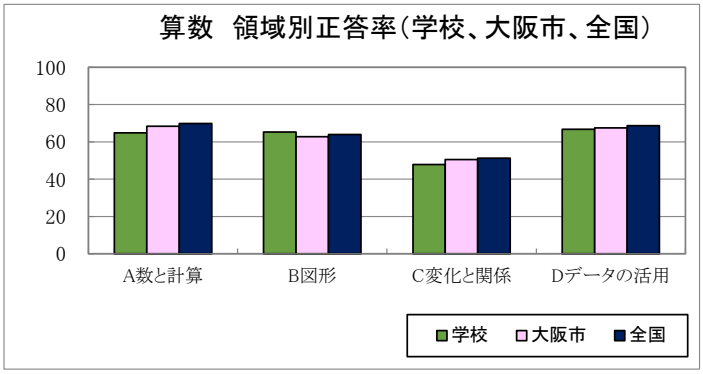
【 国 語 】

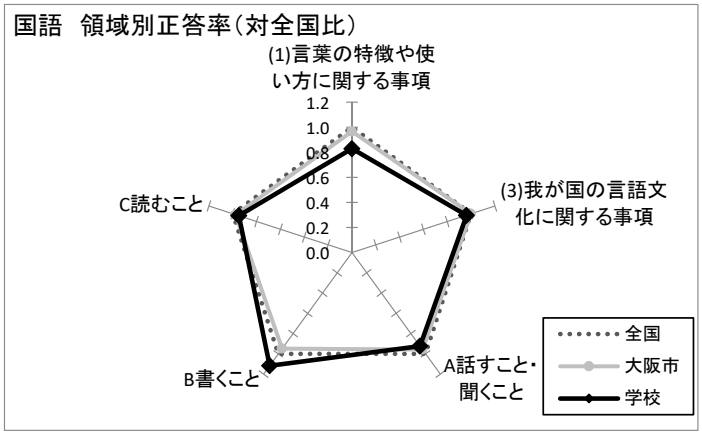
学習指導要領の内容	対象設問数（問）	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
(1)言葉の特徴や使い方に関する事項	5	57.2	66.7	69.0
(2)情報の扱い方に関する事項	0			
(3)我が国の言語文化に関する事項	1	75.0	77.8	77.9
A 話すこと・聞くこと	2	61.1	63.4	66.2
B 書くこと	2	54.2	46.0	48.5
C 読むこと	4	63.2	65.0	66.6

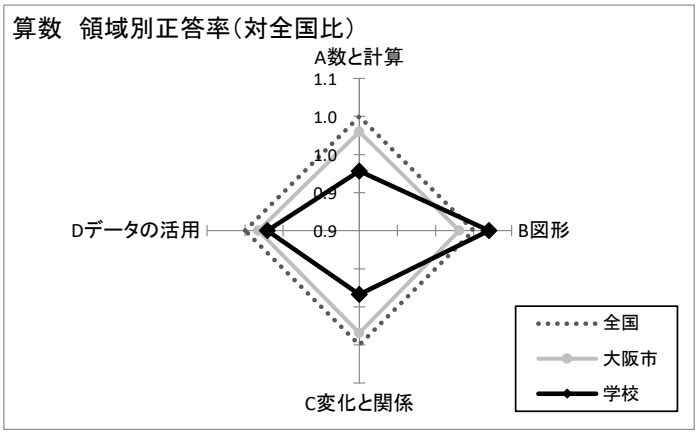
【 算 数 】

学習指導要領の領域	対象設問数（問）	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
A 数と計算	6	64.8	68.4	69.8
B 図形	4	65.3	62.8	64.0
C 測定	0			
C 変化と関係	4	47.9	50.5	51.3
D データの活用	3	66.7	67.5	68.7



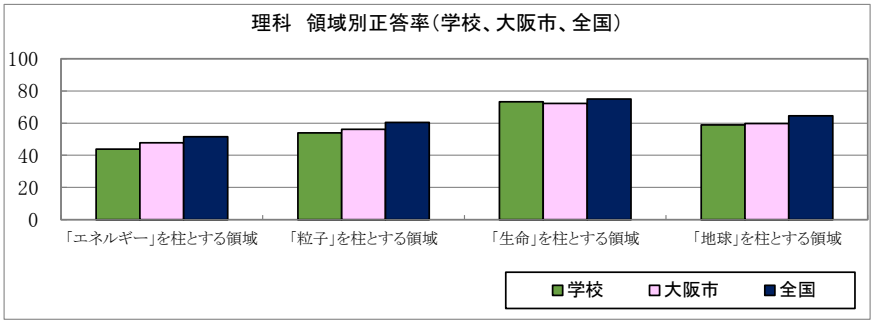


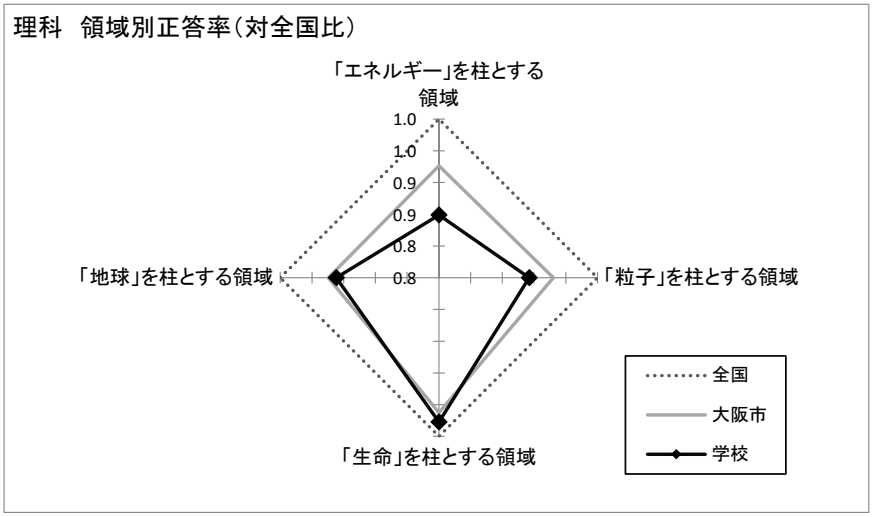




【 理科 】

学習指導要領の区分・領域		対象設問数（問）	平均正答率(%) 学校	大阪市	全国
A区分	「エネルギー」を柱とする領域	4	43.8	47.8	51.6
	「粒子」を柱とする領域	5	53.9	56.2	60.4
B区分	「生命」を柱とする領域	5	73.3	72.2	75.0
	「地球」を柱とする領域	5	58.9	59.7	64.6





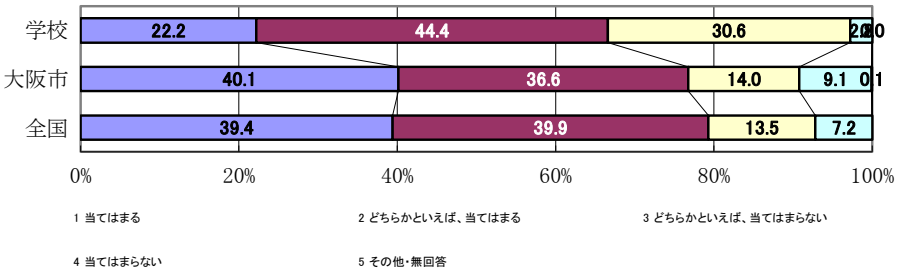
児童質問紙より

質問番号
質問事項

■1 ■2 □3 □4 □5 ■6 ■7 ■8

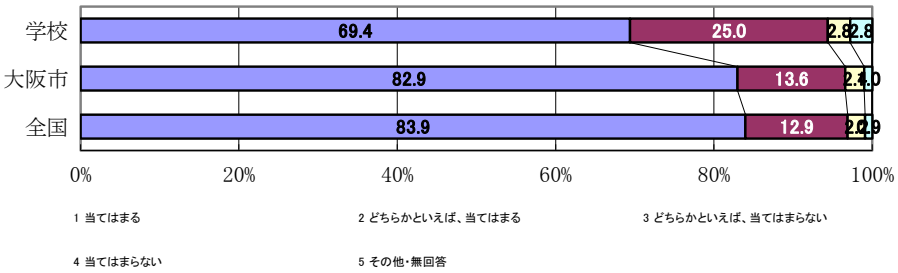
7

自分には，よいところがあると思いますか



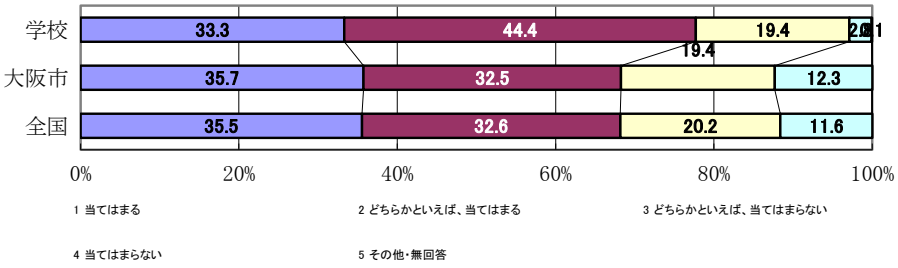
13

いじめは，どんな理由があってもいけないことだと思いますか



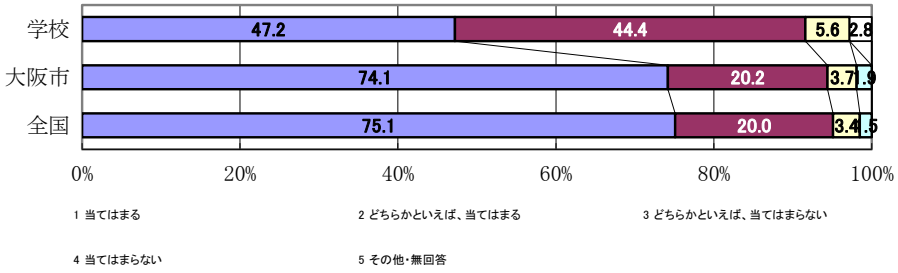
14

困りごとや不安がある時に，先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか



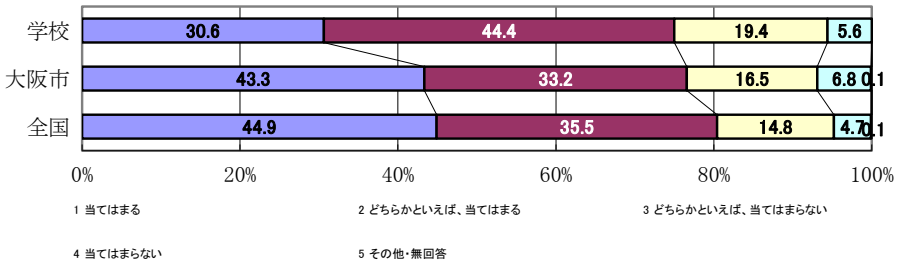
15

人の役に立つ人間になりたいと思いますか



58

算数の問題の解き方が分からないときは，あきらめずにいろいろな方法を考えますか

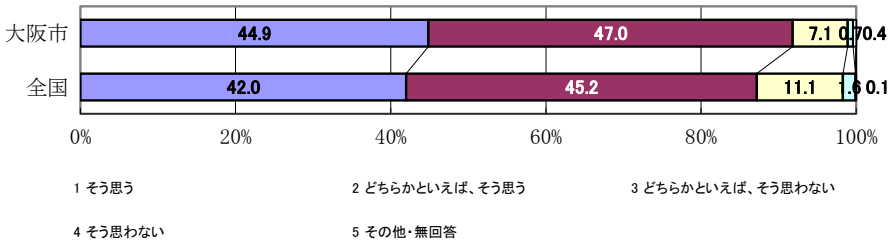


学校質問紙より

1 2 3 4 5 6 7 8 9 10

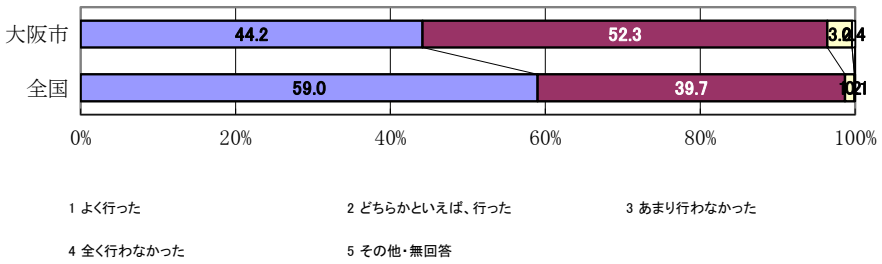
質問番号	質問事項
7	調査対象学年の児童は，授業中の私語が少なく，落ち着いていると思いますか

学校 「そう思う」を選択



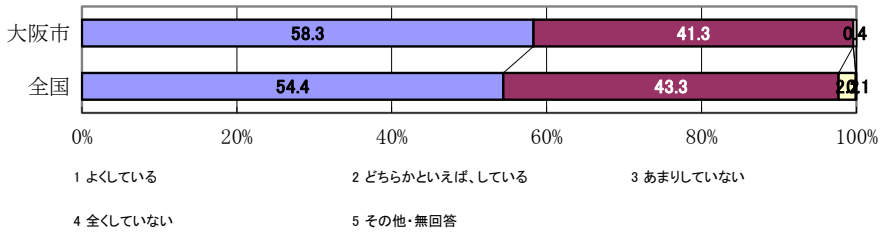
10	調査対象学年の児童に対して，前年度までに，学校生活の中で，児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか

学校 「よく行った」を選択



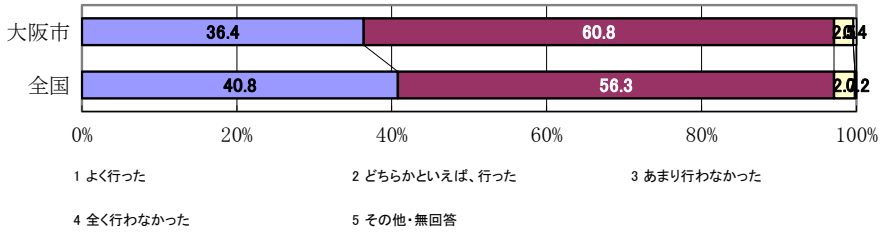
19	授業研究や事例研究等，実践的な研修を行っていますか

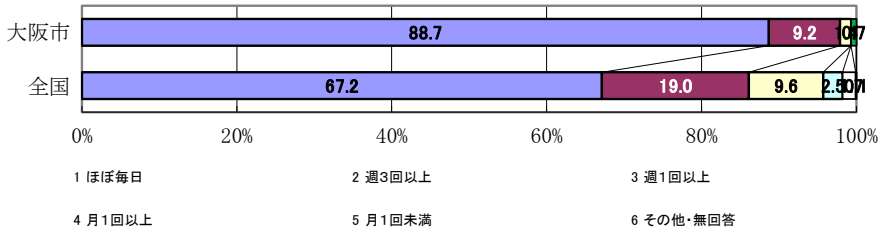
学校 「よくしている」を選択



48	調査対象学年の児童に対する算数の指導として，前年度までに，公式やきまり，計算の仕方等を指導するとき，児童がそのわけを理解できるように工夫していましたか

学校 「どちらかといえば、行った」を選択



56	前年度に，教員が大型提示装置等（プロジェクター，電子黒板等）のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか

学校 「ほぼ毎日」を選択